

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援／放課後等デイサービス Olinaceさかえ		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 4日		2025年 11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 1月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。</li> <li>・数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることが出来ます。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。</li> <li>・ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。</li> </ul>	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	共感的な支援について	教室での療育の成果を実感するためには、子どもの変化や成長をよく観察し、達成感を共有することが必須だと考えている。	今後もさらに保護者の気持ちや立場に寄り添い、子どもたちと一緒に理解しながら支援していく。
3	子どもたちの活動に合わせた空間について	学習や個別の活動等に取り組むときには、個々の特性に合わせて、刺激に少ない周囲に気になるものが無い部屋等で取り組むなど工夫を行っている。	遊びの時間と個々の活動の時間、宿題に取り組む時間等、今後も1人ひとりの力が発揮できる、集中できる環境を提供し、自己肯定感を高められるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等の開催や兄弟同士で交流する機会がない	保護者面談、療育見学等は引き続き行っております。保護者会等については、今期保護者、兄弟参加可能な「パネルシアターをみよう」のイベントを行いました。保護者や兄弟の参加希望がありましたが、流行性感冒の時期だったため数人の参加となりました。	引き続き、保護者の要望等を聞きつつ、保護者会の開催を検討していく。また、兄弟が参加出来るイベントの開催時期を検討していく。
2	低年齢の利用者が多い曜日があり、高学年の利用者が気にされている。	異年齢のかかわりが出来るのが強みの教室ではあるが、高学年の利用者に負担がかかっていると考えられる。	高学年の利用者ニーズを丁寧に把握し、仲の良い利用者や曜日と一緒にしたり、別室を用意したりするなど対応していきます。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等、放課後児童クラブや児童館との交流、地域の中で他の子どもとの活動について	保育所や認定こども園、幼稚園等の交流は送迎時に挨拶をする程度で行っていません。近隣のキッズランド(児童館)は保護者が基本的同行であり参加が難しい。また、地域の他の子どもとの交流は公園で出会った時に一緒に遊ぶことはあっても計画することはなかった。	近隣の保育所や幼稚園との関係を深め、参画出来るように検討していく。 町役場や子ども家庭センターとも相談し、地域の中で一緒に活動できる機会を検討していく。